

# 藨跡の水稻栽培法について (I)

## 耕起栽培について

牧 野 盛 行

福岡縣農業指導所

Makino, M. On the cultivation of paddy rice following rush plant. (I)

藨跡の水稻栽培法について行つた試験の成績を要約すると次の如くである。

① 藨切取跡地は従来我が国に於ては一般には耕起せず(約半世紀に渉り)して水稻作を行つて来た。

② 然し九州の如き暖地に於ては耕起して水稻を植え付けることがよい結果を得ることは既に判明している事実であるが、岡山縣などの秋冷の早い処ではイモチの発生や青立態となることがあるといわれている。

③ 藨切跡の耕起を人畜及び2.5馬力動力程度によることは非常に困難なことである。4馬力石油発動機を装備した優秀な動力耕起機による耕起は元より樂ではないが、耕深も3寸以上に深く且つ耕速が反当り2時間14分余で足りるので、植付の遅延という程にはならないので、此の植土地帯の生産を高める意味からも、この程度の強馬力機を使用することが望ましい。

④ 自動耕起機を用いて藨切跡地を耕起し、水稻作の施肥量等の試験を施行したのは、この試験がわが国で初めてのことである。

⑤ 藨跡の機械耕起に要する石油消費量は4馬力発動機使用の場合、反当り8.59立弱(価格152円)であつた。

⑥ 機械耕起区の耕深が3寸1分で確安反当り6貫施用耕起の時最多収量を示し、反当り玄米3,862石を得、同肥料用量で不耕起区に比べて約2斗(5%)多収(価格778円余)であつた。尙耕起の効果は少肥に於て一層甚しく14%増である。この耕起多収の理論については今後の研究に俟たねばならない。この実収量はこの地でも普通には高い方であり、その原因が品種の適当であつたのと、密植であつたためであることは

いう迄もない。

⑦ 溜水後機械耕起を行えば、地面は一度に均平になり水保ちは良好であるが、収量の点はまだ充分な結論を下すに至つていない。しかし、耕起機は水陸両用向が望ましい。

⑧ 8月上旬に於ける機械耕起は暑い時期であるから作業には苦難であるが、水稻は植付後この時期に於ては3日もすれば強力な根が出て活着し、よく出来るので耕起の為め植えた株は多少倒伏の嫌はある。しかし、やがて直立する様になる。従つて当日強風のあるような場合の外、倒伏については余り心配する必要はない。また、耕起区では雑草の発生が甚だ少く除草の必要は殆ど全くない。このように機械力使用のために投入した労力は、その後の水稻植付管理の省力で著しく少くすむ様になる。

⑨ また跡作水稻收穫後の耕起に當つても不耕起跡区に比し遙かに力を要しない。

⑩ このように藨切取直後の耕起は本試験では8月11日という最晩春にも不拘、跡作水稻作に非常によい結果を与えており、現下のように米穀増産の急な時代には普及の価値があると思う。このことは藨栽培上の1つの支障を取除くもので藨増植上からも大きな意味があると思われ、機械耕起機の導入は農業の総合的経営的進歩の上に寄与するものである。

⑪ 人畜に代るに石油を以つて、更に電力を以つてすることなど新しい農業経営のやり方として藨跡田の如きは良い対照となる。高価な機械の代価を公費と協同の資力によつて準備する様な奨励策が、この面からも篤と検討せられてよいと考えられる。